



福井県家畜保健衛生所

〒918-8226 福井市大畑町 69-10-1

Tel: 0776-54-5104 Fax: 0776-54-5966

↑福井県家保 HP リンク

Email : katikuho@pref.fukui.lg.jp

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kaho/index.html>

早めの暑熱対策を実施しましょう！

気象庁の予報によると、今年の夏も平年より気温が高くなることが予想されます。暑熱ストレスによって繁殖成績の悪化、増体・乳量・産卵率・卵質の低下など生産性に大きな影響を与えます。以下の暑熱対策を組み合わせることで実施し、暑い夏を乗り切りましょう！

対策

- ① スダレ、寒冷紗、遮光ネット等を利用して、畜舎内に入る直射日光を遮る
- ② 畜舎に断熱資材を施し、屋根には散水やドロマイト石灰を塗布する
- ③ 扇風機等を用いて体に直接風を当て、トンネル換気、噴霧システム等を利用して体を冷却する（送風機の羽の掃除で風速が上昇します）
- ④ 新鮮な冷水を十分に飲水できるようにする
- ⑤ 涼しい時間帯に飼料を給与する
- ⑥ 清潔な敷料を豊富に敷き、リラックスできるようにする
- ⑦ 毛や体表に付着しているふん便（ヨロイ）の除去を積極的に行う
- ⑧ ビタミンやミネラルを補給する
- ⑨ 牛については鉋塩を十分な個数設置する



県内養鶏場の例（遮光ネット設置）

着地検査の実施をお願いします

県外からの牛（搾乳牛、肉用繁殖雌牛及び候補牛）の導入日が決まったら、速やかに家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。

職員が農場へ伺って採血を実施し、ヨーネ病・牛伝染性リンパ腫・牛ウイルス性下痢の検査を行います。

ヨーネ病検査には検査手数料（1頭あたり 200 円）がかかります。

手数料の納付にはクレジット払い等のキャッシュレス決済のご利用をお願いします。



牛伝染性リンパ腫の対策

牛伝染性リンパ腫とは

以前は牛白血病と言われていた届出伝染病です。牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）感染が原因で、ワクチンや治療法はなく、一度感染すると終生ウイルスを持ち続けます。

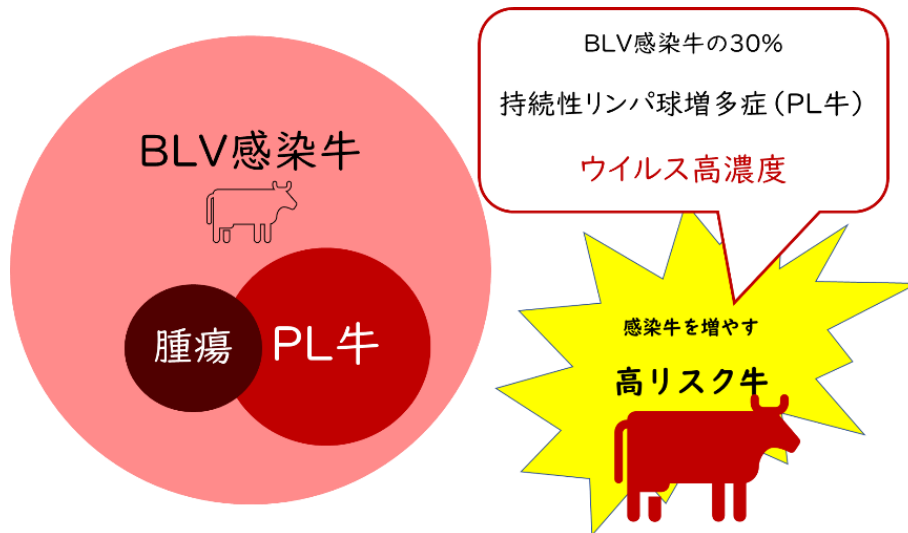
感染経路と症状

血液を介する水平感染や、胎盤や初乳を介した垂直感染が主な感染経路です。無症状で経過する牛もいますが、感染牛の約30%が持続性リンパ球増多症（PL牛）となり、数%がリンパ腫を発症し死亡します。また、発症した牛は食肉処理場では全部廃棄処分となります。全国の発症届出頭数は10年前の倍となり、1歳に満たない若い牛での発症例も報告されています。若齢で発症する原因として、農場内の牛群でのBLV汚染度が高いこと、胎盤や産道での感染や初乳による子牛期の早期感染が考えられています。

早期感染による経済的損失

早期感染した牛は乳量や乳質が低下すると言われ、初回分娩後1年以内に30%近くでリンパ腫発症がみられるとの報告があります。また、早期感染するとPL牛になりやすくなります。PL牛は血中に多量のウイルスがあるため、同居牛に感染を拡げる高リスク牛となります。垂直感染はBLV感染牛全体で見ると10頭に1頭程度ですが、PL牛の産仔では2頭に1頭と高率に早期感染が起こります。

早期感染による経営への損失、また、PL牛がPL牛を生む悪循環を断ち切るため、農場内のBLV対策をできることから始めましょう。詳細な対策方法については、当所までご相談ください。

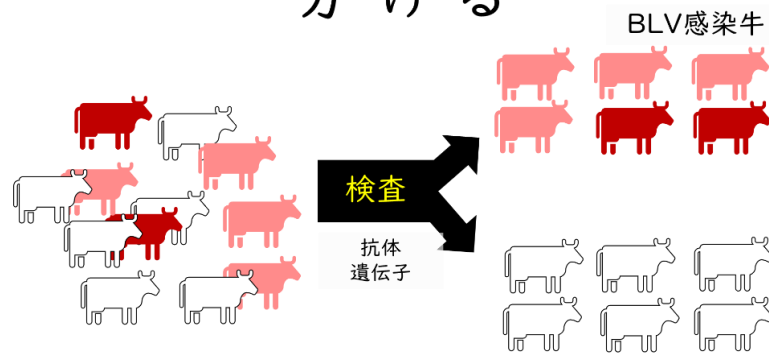


BLV 対策

1. 分ける

飼養している牛や導入牛の全頭検査をして、どの牛がBLVに感染しているか分かるようにしましょう。検査方法には抗体検査（無料）と遺伝子検査（有料：2,140円/件）があります。感染後比較的早期から遺伝子を検出できますが、抗体を検出するには感染後1か月程度かかると言われています。農場の状況に応じて、検査方法を選択します。BLV清浄化を目指す農場では、半年ごとに、感染牛が増えていないか定期検査を行っています。

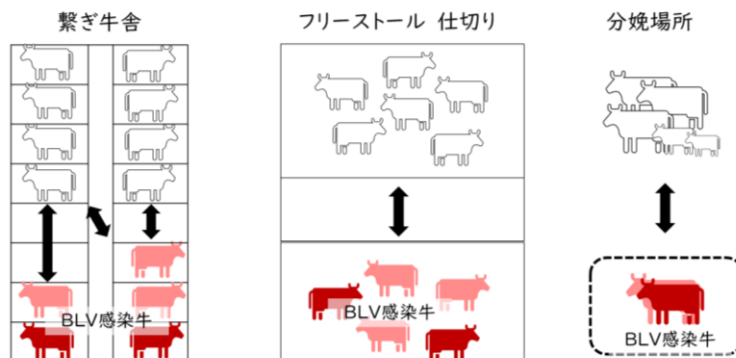
分ける



2. 離す

同居牛へ伝播する原因の一つとして、BLV 感染牛を吸血したアブやサシバエが口元にウイルスを含む血液をつけたまま近くにいる牛を刺し感染させることが知られています。一方で、牛と牛の間を飛ぶ距離が長いことで口元の血液が乾き、ウイルスの感染力が減るとされ、その距離の目安として、繋ぎ牛舎では牛房1つ分以上とされています。牛舎内で感染牛と非感染牛を分けて配置し、その間の距離をできるだけ離すことで新たな感染を防止します。また、感染牛の分娩時には、ウイルスを含んだ血液が環境中に排出されるため、非感染牛との距離を離します。

離す



3. 増やさない

感染牛を増やさないために、大きく3つの感染源の対策を行います。

① PL 牛

血液検査や遺伝子検査で PL 牛と判定された牛は感染源となるので、優先的に廃用を行います。その産仔は PL 牛になる確率が高いため、後継牛は作らないようにします。

② BLV 感染牛の血液

ウイルスを含む血液を運ぶ吸血昆虫の対策として、牛舎周囲環境の改善、防虫ネットを張る、アブトラップ設置、感染牛へ忌避剤付きイヤータグの取り付けなどを行います。血液が付くような作業（徐角等）に使用する器具は、使用順の検討や使用後の洗浄・消毒を行います。血液が付着する注射針や直腸検査手袋は1頭毎に交換します。

③ BLV 感染牛の乳汁

BLV 感染牛の初乳は早期感染の原因になるため、原則子牛に給与しません。非感染牛の初乳や人工初乳を給与します。どうしても感染牛の初乳やプール初乳を給与する場合は、乳汁中のウイルスを失活し、かつ、初乳の効力を保つ方法で処理を行います。

（処理例：-20℃で完全凍結、または56℃で30分加温）

増やさない

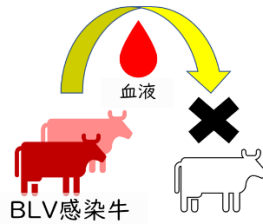
高リスク牛の優先的廃用

後継牛は作らない



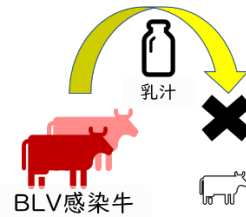
BLV感染牛の血液

吸血昆虫 器具 直検手袋



BLV感染牛の初乳

非感染牛 人工乳 処理



乳房炎対策について

梅雨の季節は湿度が高く、気温も上がってくるため、牛舎環境に細菌やカビなどが急激に増殖します。この時期は乳房炎が多発しやすいため体細胞数が上昇する傾向にあります。体細胞は給与飼料の品質やストレス等でも増加しますが、バルク乳で50万/mlを超える場合は、牛群内の潜在性乳房炎発症率が非常に高いといわれています。

バルク乳の体細胞数が継続して高い場合は、まず、乳汁の細菌検査を実施し、乳房炎を発症している牛を摘発することをお勧めします。以下に乳房炎対策の一例をご紹介します。

< A農場における取組み内容 >

経緯：バルク乳の体細胞数が継続して高いため、牛群全体の乳房炎対策が必要と判断

① 乳房炎牛の摘発

乳房ごとの乳房炎検査を実施

難治性乳房炎の原因菌（黄色ブドウ球菌など）が分離された場合

- ・ 2分房以上から分離 → 淘汰もしくは早めの更新
- ・ 1分房のみから分離 → 盲乳措置もしくは治療（再検査で検出された場合は盲乳措置）

その他の菌が分離された場合

- ・ 体細胞数が多い牛から治療

（治療後の再検査で改善がみられなければ盲乳措置もしくは更新対象）

菌が分離されなかった場合

- ・ 体細胞数が30万/ml以上 → 更新対象
- ・ 体細胞数が30万/ml未満 → 通常搾乳

② 乾乳期前の検査

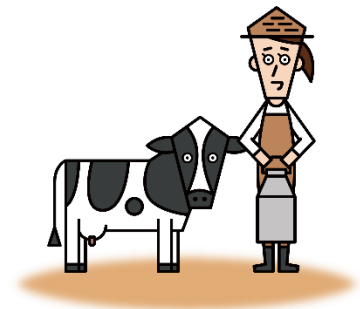
難治性乳房炎の原因菌の検出と抗生剤治療を徹底

③ 搾乳衛生の管理

搾乳手順の見直し、ミルカーの点検および消毒を徹底

④ 牛床の管理

乳房や乳頭の汚れをできるだけ少なくするために牛床の消毒を徹底



対策を講じた場合でも、体細胞数の低減、乳質の改善、廃棄乳量の減少などの効果がみられるまでには半年以上を要します。また、改善後も継続して対策を心掛けることが大切です。積極的な乳房炎対策を検討される方は家畜保健衛生所までご連絡ください。

検査手数料等の納付方法が変更されます

令和7年4月から、福井県への手数料支払い方法が変更されます。家畜保健衛生所の検査手数料等は以下の方法で納付してください。

1. 手数料納付システム（現在お使いいただけます）
パソコンやスマホから申し込み、その後に
・クレジットカード（web上）でお支払い
・コンビニエンスストアで現金でお支払い
2. 家保窓口にてキャッシュレスでお支払い（令和6年度中に開始予定）
・クレジットカード、電子マネー、スマホ決済など
3. 家保窓口で納付書を受け取り、金融機関にて現金でお支払い
（令和7年4月から）



手数料納付システム

特に1, 2の方法をお勧めしています。皆様のご協力をお願いします。

県内の主な家畜伝染性疾病の発生状況

畜種	病名	発生戸数	発生頭羽数※
乳用牛	牛ウイルス性下痢	1	1
	牛ロタウイルス病	3	21
	リステリア症	1	1
肉用牛	牛知ストリジウム・パ-フィンゲ-ン感染症	5	5
	牛コクシジウム病	1	1
	牛パスツレラ症	2	2
	牛ロタウイルス病	1	3
豚	豚胸膜肺炎	1	4
	豚知ストリジウム・パ-フィンゲ-ン感染症	1	3
	豚知ストリジウム・パ-フィンゲ-ン感染症 + 豚増殖性腸炎	1	1
	豚増殖性腸炎	1	3
	豚レンサ球菌症	1	1

（令和6年1月1日～令和6年5月31日）

※病性鑑定を実施した頭羽数